
■ 2013 年 執筆・論文

Greater potency of darbepoietin- α than erythropoietin- α in the suppression of serum hepcidin-25 and utility of iron for erythropoiesis in hemodialysis patients

Eur J Haematology , 90:237-244, 2013

Shigeichi Shoji ¹, Masaaki Inaba ², Naohisa Tomosugi ³, Senji Okuno ¹, Mitsuru Ichii ², Tomoyuki Yamakawa ¹, Satoshi Kurihara ⁴

(Shirasagi Hospital ¹, Osaka, Japan, Department of Metabolism, Endocrinology and Molecular Medicine, and Department of Nephrology, Osaka City University Graduate School of Medicine ², Department of Advanced Medicine, Medical Research Institute, Kanazawa Medical University ³, Saitama-Tsukinomori Clinic, Saitama, Japan ⁴)

第 7 章 画像診断・腫瘍マーカー・感染症, その他 その他 4. ABI・TBI・PWV・CAVI

透析患者の検査値の読み方(改訂第 3 版)

(監修)秋澤忠雄／(編集)深川雅史

日本メディカルセンター, pp 429-432, 2013 年

奥野 仙二¹／石村 栄治²

(仁真会白鷺病院¹／大阪市立大学大学院医学研究科腎臓病態内科学²)

再バイパス手術が奏功した糖尿病性末期腎不全の重症虚血肢 2 例

日本血管外科学会雑誌 22(1): 17-20, 2013

木村 英二／向井 資正／山川 智之(診療部)

便通異常とその総合対策

臨牀透析 29(2): 167-173, 2013

山川 智之(診療部)

非自己管理型在宅血液透析を巡る問題とその対応

臨牀透析 29(3): 52-53, 2013

山川 智之(診療部)

出口部ケアの振り返りー洗浄の実際と出口部感染の状況ー

大阪 CAPD 研究会会誌 26:25-28, 2013

小澤 しのぶ／柚木 徳子／堀田 加往理／辻村 里美／黒田 美津恵(看護部)

骨代謝マーカーUpdate – 研究と臨床

4. CKD 併発を視野に入れた骨代謝マーカーの選択

週刊医学のあゆみ 246(12): 1027-1031, 2013

奥野 仙二(診療部)

当院における Simple PWAT(peritoneal wall anchor technique)法の試み

腎と透析 75 巻別冊, 腹膜透析 2013

69-70, 2013

山川智之／鍵谷聡介(診療部)

小澤しのぶ／柚木徳子／堀田加往理／辻村里美(看護部)

インフォームドコンセントのための図説シリーズ 透析療法 改訂 3 版

9. 主な合併症 2.易感染性

大平整爾 編著, 医薬ジャーナル社 p72-77, 2013

奥野 仙二¹／西澤 良記²

(白鷺病院¹／大阪市立大学²)

第 4 章 腎機能に応じた適切な薬物投与設計

透析患者の薬物投与設計

監修: 平田純生, 木村健, 竹内裕紀

編集: 日本腎臓病薬物療法学会

腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト

P.204-244, 2013 年 5 月 31 日発行

古久保 拓(薬剤科)

第 7 章 腎機能低下患者に対する薬剤の適正使用

抗ウイルス薬

抗結核薬

不整脈治療薬

監修: 平田純生, 木村健, 竹内裕紀

編集: 日本腎臓病薬物療法学会

腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト

p296-302

p306-309

p330-333, 2013 年 5 月 31 日発行

古久保 拓(薬剤科)

第 2 章 腎臓疾患

CKD の薬物療法(CKD 患者の主な合併症とその治療薬) 血液透析と抗凝固薬

監修: 平田純生, 木村健, 竹内裕紀; 編集: 日本腎臓病薬物療法学会
腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト
P.68-72, 2013 年 5 月 31 日発行

和泉 智 (薬剤科)

第 7 章 腎機能低下患者に対する薬剤の適正使用

腎機能低下患者に対する泌尿器・生殖器・肛門用剤の適正使用

監修: 平田純生, 木村健, 竹内裕紀; 編集: 日本腎臓病薬物療法学会
腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト
p 430-434, 2013 年 5 月 31 日発行

和泉 智 (薬剤科)

下肢切断患者への指導

食事介助の方法/社会的資源の利用/外食の利用/家事援助

編著 田村智子
透析ケア 2013 年夏期増刊・透析患者の栄養管理と食事指導(株式会社メディカ出版)
p130-133, 2013 年 6 月

上嶋 章子(栄養管理科)

食事介助の方法/社会的資源の利用/外食の利用/家事援助

食事指導 便秘の解消方法

編著 田村智子
透析ケア 2013 年夏期増刊・透析患者の栄養管理と食事指導(株式会社メディカ出版)
p213-218, 2013 年 6 月

上嶋 章子(栄養管理科)

知っトク! 透析患者の社会保障

透析ケア Vol.19, 2013 年

藤田 譲(医療福祉科)

入院・通院透析患者の一貫した栄養評価・指導

特集 透析患者の栄養障害と NST の可能性

V 規模別 NST 活動の展開
亜急性期～慢性期病院

臨牀透析 特大号 29(8): 1211~1216, 2013

上嶋 章子(栄養管理科)／奥野仙二／山川智之(診療部)

わが国の透析医療の特殊性と患者心理

Modern Physician 33(9): 1123-1128, 2013

山川 智之(診療部)

血液透析患者における tazobactam / piperacillin(TAZ / PIPC) 反復投与時の体内動態

日本化学療法学会雑誌 61: 427-434, 2013

古久保 拓¹／山川 健次郎²／西尾 恵里子²／田中 千春¹／吉田 拓弥¹／和泉 智¹／庄司 繁市²／山川 智之²
(薬剤科¹／診療部²)

Letter to Editor

「カーボスター透析液の調整と慢性維持透析患者の酸塩基平衡」(正井基之, ほか)の論文について

透析会誌 46(10):1033-1036, 2013

山本 忠司(白鷺病院)

検査値・症状から「コレがあやしい」に気づく！

透析患者のくすりと副作用／呂律困難, 見当識障害, 意識障害

透析ケア 2013 年 10 月号 p59-61

古久保 拓(薬剤科)

特集「動脈硬化とリン」 2. 透析患者のリン代謝と動脈硬化

Nephrology Frontier 12(4): 364-370, 2013

奥野仙二¹／石村栄治²
(白鷺病院¹／大阪市立大学大学院医学研究科腎臓病態内科学²)

いわゆる特定看護師(仮称)をめぐる議論と透析医療

臨牀透析 29(12): 74-75, 2013

山川 智之(診療部)

透析患者のマグネシウム濃度を巡るエビデンス

日本透析医会雑誌 28(3), 482-488, 2013

奥野 仙二¹／稲葉 雅章²
(白鷺病院¹／大阪市立大学大学院 医学研究科 代謝内分泌病態内科学²)

Significant positive relationship between serum magnesium and muscle quality in maintenance hemodialysis patients

Magnesium Research 26(4): 182-187, 2013

Hisanori Okazaki^{1,2}, Eiji Ishimura¹, Senji Okuno², Kyoko Norimine², Kenjiro Yamakawa², , Shigeichi Shoji², Tomoyuki Yamakawa², Yoshiki Nishizawa¹, Masaaki Inaba¹

(Nephrology, Metabolism, Endocrinology, Molecular Medicine and Nephrology, Osaka City University Graduate School of Medicine¹, Shirasagi Hospital²)

Effects of decreased vitamin D and accumulated uremic toxin on human CYP3A4 activity in patients with end-stage renal disease

Toxins 1475-1485

2013 年 8 月

Masayuki Tsujimoto¹, Yui Nagano¹, Satomi Hosoda¹, Asuka Shiraishi¹, Ayaka Miyoshi¹, Shima Hiraoka¹, ¹Taku Furukubo², Satoshi Izumi², Tomoyuki Yamakawa³, Tetsuya Minegaki¹, and Kohshi Nishiguchi¹

(Department of Clinical Pharmacy, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kyoto Pharmaceutical University¹, Department of Pharmacy Services, Shirasagi Hospital² and Department of Medicine, Shirasagi Hospital³)